

コリント人への手紙第一 第4章 13節

「『私は信じた。それゆえに語った』と書いてあるとおり、それと同じ信仰の霊を持っている私たちも、信じているゆえに語るのです。」

信じることはそんなに難しいことですか。この問掛けにどのように応え得るだろうか。信じること、何物をも必要としないし、また求めることでもない。何か証拠を求めることでもないし、なにか見えるものがあったからと言って必ずしも保証とならない。信じることは見るができない心の姿勢である。

信じることでは具体的に何か見える物を要求しない、とすればそれほど難しいことではない。信じる証拠としてなにかを提示することを要求しない、とすればそれほど信じることはそれほど難しいことではない。しかし、一方で、なにも要求しないからこそ信じることは難しいといえる。信じている私を知る者は、信じることがいかに脆く変節するか知っているからである。信じている当の本人の危うさを知っている。

だから、信仰の霊を持っている私たちも、信じているゆえに、とある。信じることは生身の人間には不可能である。そもそも自己限界を孕んでいる者に信じることは不可能である。可能であるとすれば、信仰の霊にあずかった自分として信じることである。霊の人とされ、信じ、語る。

2023年6月20日